太田東西かわら版

２０１９．１１

絶対安心の母性

「マーヤ」という会社と漢方食品を設立開発して、今年で１０年になりました。
その記念式典には会場満席、マーヤを愛する１３０名が集ってくださいました。

何のために、会社や漢方をつくったのか？

病気の相談をたくさん受けて来て、１０年前に気づいたのです。
病院で診断される病名は山ほどありますが、その根本原因、なかなか治らない理由はおよそ“一つ”だということに。

その“一つ”とは？

「不安」です。

人は誰かに認められているという安心感・自己肯定感があって、明るく楽しく健康的に生きていけるものです。

では、人は誰に一番自分を認められたいのか？

根源的存在

「母親」です。

「母親から待望されて生まれて来た」「愛されて育った」という実感。
産んで育ててもらった愛。そこに見返りを求める親の欲は一切ない。
我が身を命を削ってでも、子どもの幸せを願う。願い続ける・・・・

その愛こそが

「母性」

与え続けるだけ、見返りを求めない

「無償の愛」

人は母性（無償の愛）を享受して、自分の存在を肯定できる。自信を持って生きていける。自分がどうなろうとも「自分を認めてくれる存在」を信じて前向きに生きていくことができる。

では、現実はどうか？
母性に飢えている人たちばかりです。

「俺は母親が愛おしいと思ったことなんかない！」と豪語している男性が妻のことを「お母さん」「ママ」と呼んでいたり、スナックの「ママ」の元に足しげく通っていたり、たくさんの「ママ」を求めて浮気したり・・・(笑)
自分の弱さや寂しさを隠して強がっている人が多いと実感しています。

「大丈夫！」「間違っていないよ！」「よく頑張っているね、えらいね！」
「疲れたね、ゆっくりお休み」「遠く離れていてもずっと見守っているから」
人は誰でもそんな自分を認めてくれる母性的な言葉をかけてほしいもの。
疲労困憊、希望を失っている時ほど。

毎日の生活に追われて、ほとんどの家族がくたびれ果てているご時世。
だからこそ家族が「お互いの頑張りを認め合う母性」を培い、意識して生きていくことが大切なのですが、現実はお互いを批判非難し合ってばかりいる…。

「母性の充電不足」

いつもイライラして、相手を批判非難する背景にある原因です。
孤軍奮闘して頑張っている自分を、家族や周りから認めてもらえない虚しさと孤独感。それが家族に対するイライラ・批判非難の泉となっています。

「ならば、自分たち夫婦がお客様の頑張りを認め、励まし、支援して行こう！
“育ての母”となって母性を与え続ける存在になろう！！」
それがマーヤを立ち上げた目的です。

「絶対安心の母性」

お客様にそれを与え続けて来た１０年だったかどうか？
まずは私たち夫婦がこれまでの頑張りを認め合った１０周年記念祭でした。

記念式典の後、「よく頑張って来た！集合写真こそがその証左だ！」と自分で
自分を認めたのですが、７月からの３か月はあまりにもハードでした・・・
８歳の愛犬を亡くし、１０年以上のお付き合いのお客様たちを亡くし・・・
自分の漢方薬剤師としての力不足に虚無感を覚え、悔し涙を毎日流し・・・

≪絶対安心の母性≫が枯渇している自分・・・
１０月２０日の記念祭の翌日、まるで赤子がそれを追い求めるかのように
伊勢神宮に向かうことを急きょ決意。

伊勢に降り立った２２日は、偶然にも≪即位礼正殿の儀≫の日だった！

≪麻亜耶≫、３年前に開発した≪アシュール≫、そして今年開発した
≪雲消霧散≫を手にしての１泊２日の一人旅。

内宮宇治橋で≪絶対安心の母性≫をチャージしながら、祈る

外宮神殿にて≪事業繁栄≫の祈祷を受け、祈る

天照大御神。私にとっての絶対安心の母性なる存在。
人間は「根源なる母性」「無償の愛」なくして、愛を持って生きていけない。
それを再認識した、人生３度目のお伊勢参りでした。